



①市民スタッフになったきっかけ

岐阜市民になった14年前に何か新しい事に挑戦したいと思った。まず、手始めに清流ハーフマラソン。次に新能、歴博等々参加。そして6年前、たまたま見かけたぎふアジア映画祭一日ボランティア募集のチラシを見つけ参加した事がきっかけ。

②事業との関わり

様々なボランティアを経ている中で、文化芸術への興味が湧いた。今、一番の興味は…寄席紙切り。勿論、寄席は大好きです。目指すは…ホール落語ではなく、本寸法の落語会=寄席。市民の声を反映した文化事業を展開するため、会議では市民スタッフメンバーが活発な意見交換をしています。

③活動参加を考えている人へ

難しい事は有りません。時間が余っている方、仕事している方で気分転換を図りたいと思っている方、この活動が気になっている方、何方でも…是非何も考えずにまずは体験して下さい。そして、ピンと来たら仲間になって下さい。岐阜市の素晴らしさを私達と一緒に、文化芸術を通して発信していきましょう。

何も考えずに
まずは体験
して下さい



G-free



第21号

令和4年3月31日

第21号

"G-free"募集!

岐阜市民会館
岐阜市文化センター
施設ボランティア

●自主事業公演当日

- ・チケットもぎり
- ・アンケート配布・回収
- ・会場案内 など



●市民スタッフ事業 ●ぎふアジア映画祭

- ・企画
- ・映画祭作品選定
- ・運営・広報・HP など



- ・カメラ、ビデオなどの記録撮影
- ・イラストの作成
- ・活動紙、チラシの作成

興味のある方はご連絡ください!
会議の見学も可能です。

20代~80代の38名が活躍しています!
自分に合ったスタイルで、やりたい事!
できる事から!
ご参加ください!!



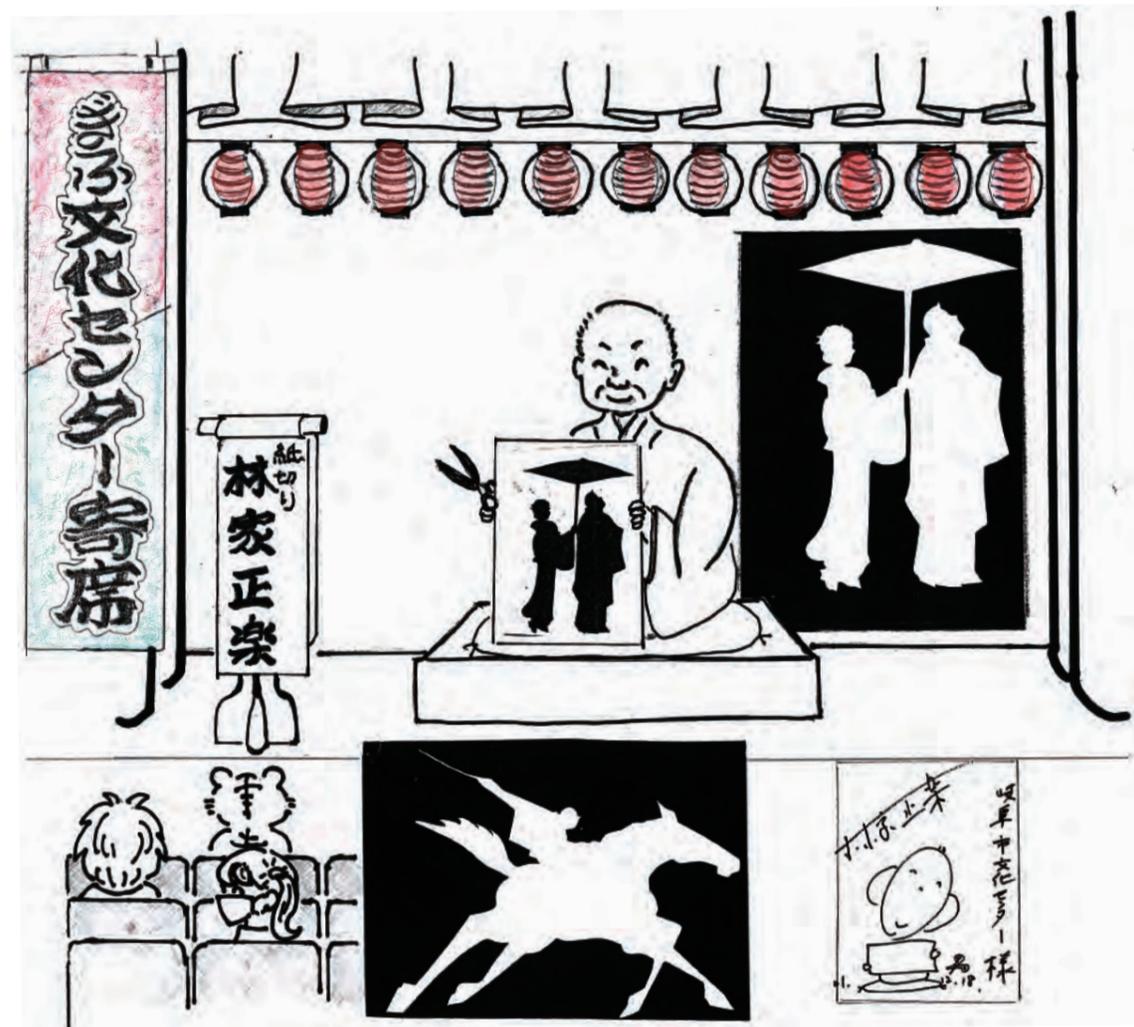
岐阜市文化センター

〒500-8842
岐阜市金町5丁目7番地2
TEL 058-262-6200 FAX 058-262-6229
<http://gifu-culture.info>



岐阜市民会館

〒500-8812
岐阜市美江寺町2丁目6番地
TEL 058-262-8111 FAX 058-262-8114
<http://gifu-civic.info>



令和4年3月31日





第383回市民の劇場

「第43回 ぎふアジア映画祭」 2021/10/30~11/28



皆さま、こんにちは。昨年も映画祭に足を運んでいただきありがとうございました。映画を見たい、という多くのお客様に支えられ、無事終えることができました。映画、音楽、芸術はなくても生きていくことは出来るかもしれませんが、でも、あった方がきっと、いい。そこには、自分達の知らない世界、文化があり、それに触れることで、人はもっと豊かになれるはず。未だコロナ禍の終息が予測できない中ではありますが、スタッフ一同、皆さまに楽しんでいただける映画祭を開催できるよう、尽力いたします！

「風の電話」東日本大震災パネル展

市民スタッフ 小島 淑子

2011年3月11日の東日本大震災から丁度10年目。震災で両親と弟を亡くし、その後身を寄せていた叔母が急に倒れ、自分だけを残し大切にしていたもの全てが去って行った状況に、岩手県大槌町へ衝動的に向かった高校生の少女を主人公としていたことから、日本映画の一つとして「風の電話」を上映することが決まりました。

この上映に伴い、朝日新聞社、岩手日報社協力のもと、市民会館展示ギャラリーにて、「東日本大震災パネル展」の展示と、実際の「風の電話」に纏わる映像を流しました。10年前の大震災直後のパネルは、人々の悲惨な様子や過酷な状況を甦らせて、胸を突き涙を誘います。が、その後の「再生」と「復興」のパネルには「風の電話」の主人公が、色々な人々に助けられ、励まされ、大震災による理不尽な別れを克服して生きてゆこうとする姿と重なる人々が写っていて、まだまだ解決出来ない問題も多くあるだろうけれど、未来に向かって生きてゆこうとする力強さを、感じる事が出来ました。今年も又、市民ボランティア活動は一からの出発だけれど、どんな新たな経験が出来るか今から楽しみです。



「ガンジスに還る」インド文化講座

市民スタッフ 大江 繁美



「ガンジスに還る」上映後に開かれたインド文化講座。今回で2度目のご登場となります。インド映画研究家・高倉嘉男氏（写真）をお招きし、宗教やカースト制など映画の理解が深まるお話しを、インドに実際に暮らした者だからこそその視点で分かりやすく解説していただきました。

…インドはお釈迦様の誕生の国ですが、今は約80%がヒンドゥー教、カースト制による差別は憲法で禁止されているものの、世襲の集団として一般的に生活に根付いているものであるようで少し驚きました。

映画の舞台でもあるガンジス河や聖地バラナシについても色々な面白いお話があり、特に“輪廻転生を繰り返し良いカルマを積みいつか解脱を得る”という人生の目的になるほどの生死に対するインドの人々の意識はとて興味深かったです。

また、主人公の俳優ラリト・ベヘルさんが新型コロナウィルスによりまだ71才で逝去されたとのことで、私達は今コロナ禍の真っ只中で生活しているのだとも思い知りました。でも、こんな時代だからこそ文化や芸術、素晴らしいインド映画を噛みしめたい、ですよ。

「羊飼いと風船」チベット文化講座

市民スタッフ 中島 幸子

チベットの高原で多くの羊を飼い、育て、売り、暮らす家族のお話でした。しかし、民族も言葉も習慣も大きく違うのに、ここも中国なのかと少し不思議な気もしました。パマ・ツェテン監督はインタビューで「魂が現実と衝突を起こした場面での人間の困難についての物語を語りたかった」と答えています。輪廻転生を信じる地域の中で、一人っ子政策や経済面の問題からこれ以上子供を産めないという悩む妻、そんな彼女から見れば、仏門に入り浮世離れたような生活をする妹を羨む場面がありました。妹も恋に破れ悲しい想いしているだろうと思いました。辛いことの無い人生は無いように考えています。



上映後の星先生（写真）の講演はチベット高原の暮らしや文化、映画界など多岐に渡り興味深いものでした。客席からのチベット仏教に関する鋭い質問にも丁寧に説明され、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。

第387回市民の劇場 市民スタッフ企画Vol.19

「ぎふ文化センター寄席」 2021/12/18 市民スタッフ 馬淵 雅人



今回の演し物は、岐阜大学落語研究会・春雨亭あずきさんの落語『あくび指南』、林家正楽師匠の紙切り、昔昔亭A太郎師匠の落語『明烏』、市民スタッフによる企画「寄席文化紹介コーナー」でした。今回、私たち市民スタッフが特にお客様にご覧いただきたいかったのが、A太郎師匠の寄席太鼓と正楽師匠の紙切りです。

本来寄席の太鼓は前座さんが叩くものですが、舞台袖でA太郎師匠が叩いていたことをお客様にお伝えするちょっとしたサプライズを計画していたのですが…呼び出し太鼓の後、正楽師匠のお囃子として来ていただいた曲師・田村かよさんとA太郎師匠が、なんと！あずきさんの出囃子を生演奏して下さいました。市民スタッフによる企画「寄席文化紹介コーナー」では、A太郎師匠が解説付きで呼び出し太鼓・追い出し太鼓を叩いて下さり、更に正楽師匠の出囃子もA太郎師匠が叩き、そのお返しとばかりに、今度はA太郎師匠の出囃子を正楽師匠が叩くという、私たちスタッフにとっても大サプライズがありました。



紙切りについては、第一人者の正楽師匠の高座だけでなく、ロビーでの作品展示を行いました。初代正楽から現在活躍する紙切り師まで7人の『藤娘』を展示したり、『バカ殿』『長良川の鶉飼』『たこあげ』等バラエティーに富んだ作品を展示して紙切り師たちの紙（神）技をご覧いただきました。



お客様アンケート 『大変満足』『満足』が97%、 『不満』はなんと0%!! 「寄席太鼓や紙切りに興味がわいた」「紙切りを初めて見て感動した」「A太郎師匠の太鼓が聴けて良かった」など、ご意見を多数いただきました。



さて、私たち市民スタッフは、既に来期に向かって動き始めています。多くの皆様にスタッフとしてご参加いただき、より楽しい公演を企画立案していきたいと思っております。企画以外にも、広報、記録撮影、会場設営、チケットもぎり、会場案内、場内アナウンスなど、誰もが自分の能力を発揮できる場がきっとあります。ぜひご参加ください。